

幻となった日本一連覇の経済波及効果についての発表 ～横浜DeNAベイスターズ、今年も感動と興奮をありがとう～

2025年10月23日

調査部 特任研究員 北田 英治

今年は横浜スタジアムでクライマックスシリーズ2試合を開催

2025年10月17日、横浜市に本拠地を置く横浜DeNAベイスターズは、阪神タイガースとのクライマックスシリーズ・ファイナルステージ第3戦に敗れ、日本一連覇の夢が消えた。

当社では昨年12月に、日本銀行横浜支店と共同で、「横浜DeNAベイスターズ日本一による経済波及効果」を発表した。その中で、横浜DeNAベイスターズが日本シリーズで日本一に輝いたことに伴う支出増加額（①日本シリーズにおける横浜スタジアム来場者の消費額、②横浜DeNAベイスターズのファンによる球場外での消費額、③日本一優勝セールにおける消費額、④日本一優勝パレードの来場者による消費額など）の合計が全国で280億円に達すると試算した。また、こうした新規需要を基に経済波及効果を計測すると、全国で発生する経済波及効果の総計は517億円、また神奈川県内への経済波及効果は246億円となった¹。

そして、今年、横浜DeNAベイスターズはリーグ優勝を逃したものの、9月以降の快進撃によってリーグ2位でシーズンを終了し、クライマックスシリーズ・ファーストステージを横浜スタジアムで開催することになった。当社では、このタイミングで「横浜DeNAベイスターズ日本一連覇による経済波及効果」の試算に着手した。今回の試算におけるポイントは、①今年ならではの押し上げ効果の計算、②最近の経済・物価情勢の反映、③前年の経済波及効果の検証、である。

この①については、今年は横浜スタジアムでクライマックスシリーズを2試合開催したことと、2024年の日本一を契機に横浜DeNAベイスターズのファン層が拡大したことが、球場内外での消費額を大きく押し上げたと考えられる。また②については、足元で消費者物価の高い伸びが続いていることが各種商品・サービスの購入単価を押し上げる要因となる一方で、家計の節約志向の強まりが財布のひもを固くした一面もあるとみられる。

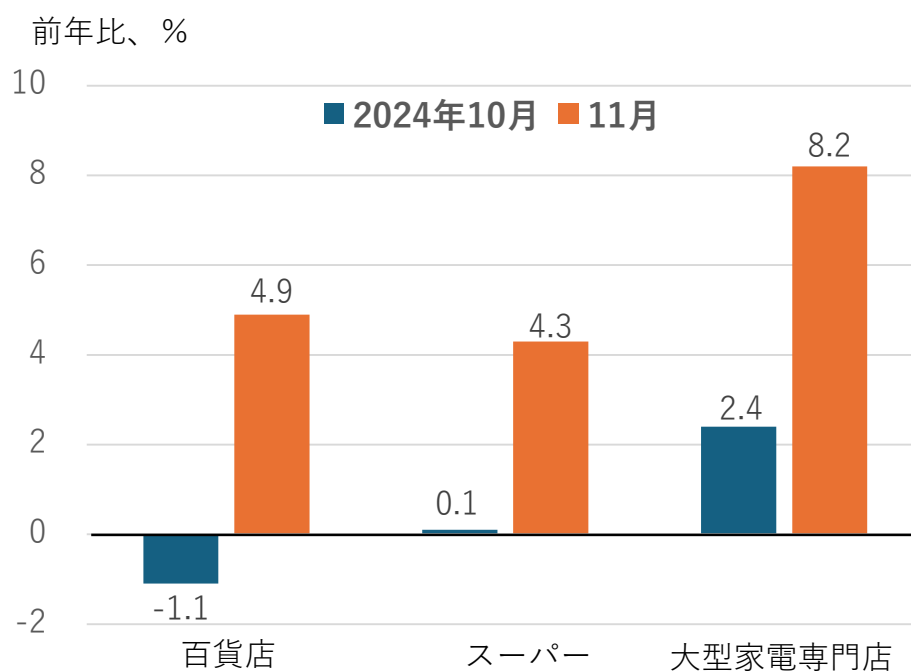
昨年11月の横浜市内の百貨店販売額は前年比+5.8%と大幅な増加に転じる

上記の③については、横浜市内を中心とする百貨店や商業施設、家電販売店などで行われた日本一優勝セールの効果を検証した。日本百貨店協会の資料で2024年の横浜市内の百貨店販売額を

¹ 詳しくは、浜銀総合研究所「横浜DeNAベイスターズ日本一による経済波及効果」（2024年12月）をご覧ください。[横浜DeNAベイスターズ日本一による経済波及効果](#)

振り返ると、10月には前年比-0.7%と前年割れとなったものの、優勝セールが行われた11月には同+5.8%と大幅な増加に転じている。また、経済産業省の「商業動態統計」で2024年11月の神奈川県内における商業施設の売上高をみると、百貨店が前年比+4.9%（10月は同-1.1%）、スーパーが同+4.3%（10月は同+0.1%）、大型家電専門店は同+8.2%（10月は同+2.4%）と、いずれも前月に比べて伸びを高めている（図表）。これをもとに、2024年の日本一優勝セールによる、県内商業施設の11月の販売押し上げ額を試算すると、百貨店で前年（2023年）比+6.0%分（2,154百万円）、スーパーで同+4.2%分（4,201百万円）、大型家電専門店で同+5.8%分（1,576百万円）となり、その合計額は7,931百万円となる。当社が昨年12月に発表した「横浜DeNAベイスターズ日本一による経済波及効果」の中では、一定の前提条件を置いた上で、日本一優勝セールにおける消費増加額を8,885百万円と試算した。今回の検証によって、当社の試算値をやや下回るものの、2024年の日本一優勝セールがそれなりに大きな効果をもたらしたことが確認できたといえよう。

図表 神奈川県内の商業施設の売上高



出所：経済産業省「商業動態統計」

来シーズンのリーグ優勝と日本一奪還に期待

前出したように、①横浜スタジアムでクライマックスシリーズを2試合開催したこと、②2024年の日本一を契機に横浜DeNAベイスターズのファン層が拡大したこと、③足元で物価の上昇が続いていること、などを踏まえると、もし今年、横浜DeNAベイスターズが日本シリーズに進出し、日本一の栄冠を勝ち取っていたならば、その経済波及効果が前年の試算値（全国で517億円、神奈川県内で246億円）を大きく上回ったことは間違いないと考えられる。

もちろん、日本一連覇は成し遂げられなかったものの、9月からクライマックスシリーズ・ファーストステージまでの横浜DeNAベイスターズの快進撃が、ベイスターズファンに多くの感動と興奮を与えたことは言うまでもない。また何よりも、地元スポーツチームの躍進は、その時の地域を象徴する話題となって、地域に住む人々や、地域で働く方々、そして地域を訪れる人たちに元気や活力をもたらした。横浜DeNAベイスターズの選手、コーチ、スタッフの方々、そして今シーズンで退任した三浦大輔前監督に改めて感謝の意を表したい。来シーズンは相川亮二新監督のもと、セントラル・リーグで優勝し、日本一を奪還することを期待してやまない。頑張れ横浜DeNAベイスターズ。

執筆者紹介



北田 英治（きただ えいじ）

浜銀総合研究所 調査部 特任研究員

マクロ経済・金融マーケットを中心とする調査業務を担当。

各種レポートの作成や講演活動などに携わる。

FMヨコハマの朝の番組「ちよーどいいラジオ」の経済コーナーに

毎週レギュラー出演中。

浜銀総合研究所では、景気動向に関するレポートなどの発行情報をメールにてお知らせしています。ご関心のある方は、下記のサイトより、「レポート更新情報お知らせメール」（無料）にご登録ください。【URL】 https://www.yokohama-ri.co.jp/html/inquiry/inquiry_repo.html?nno=5

本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取り扱いいただきますようお願いいたします。